

3.11 後の運動参加

—— (3) レポートリーの比較分析 ——

金城学院大学 原田 峻

1 目的

3.11 後の社会運動においてはデモにとどまらず、シンポジウム・勉強会開催、署名・住民投票要求、陳情・請願、ウェブメディアでの情報発信など、多様なレポートリーが採用された(町村・佐藤編 2016)。一例として「さようなら原発一千万署名」は2013年11月に約837万筆を集めており、こうしたレポートリーの運動参加者を含めて、3.11 後の社会運動の全体像を明らかにする必要がある。

運動参加の先行研究では、請願書への署名、集金やカンパ、市民運動や住民運動への参加、デモへの参加の順に、参加のリスクとコストが高くなり、参加程度が低くなることが示されてきた(栗田 2016)。では、3.11 後の反原発運動と反安保法制運動においても、同様にレポートリー間で参加程度に違いは見られるのだろうか。また、各レポートリーの参加者の差異を規定する要因は何か。

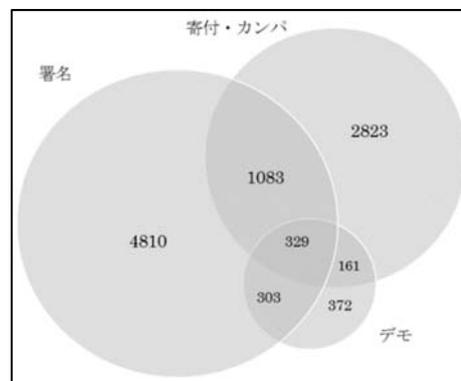
デモ参加者の属性・意識や動員経路などを明らかにした第1・2報告に続き、本報告ではデモとそれ以外のレポートリーについて、参加者の比較分析をおこなう。

2 方法

第1・2報告と同じデータを用いる。有効回答のうち、反原発運動・反安保運動の各種レポートリーに参加した者を分析対象とする。

3 結果

3.11 後の反原発・反安保においてレポートリー間の参加率を比較すると、どちらも高い順から、「署名>寄付・カンパ>ツイート・ブログ>デモ>集会参加>陳情・請願」となった。ただし、参加程度が高いレポートリーから低いレポートリーへと包含関係が成立する訳ではなく、例えば反原発運動における署名、寄付・カンパ、デモの参加者の集合を表すベン図は右図のように描ける。



では、これらの参加者の違いはどのように説明できるのか。例えば反原発運動におけるデモと署名の差異に着目し、「デモに参加したが、署名には参加していない層」「署名に参加したが、デモには参加していない層」を従属変数として他の変数との関連性を調べると、性別・年齢・学歴・雇用形態などで有意な関連性が見られ、女性より男性、高卒者・短大卒者よりも中卒者・大卒者、非正規雇用労働者より正規雇用労働者・経営者、また年齢が低いほど、デモのみ参加者になりやすい、などの傾向が明らかになった。

4 結論

暫定的な結論として、3.11 後の社会運動においてもリスクとコストの高いレポートリーほど参加率が低くなったが、レポートリーごとに参加者の属性に差異が見られた。レポートリーの多様化は参加者の多様化も意味しており、3.11 後の社会運動における広範囲な動員をもたらしたと言える。

文献

栗田宣義, 2016, 「社会運動参加の持続と変動」『甲南大學紀要 文学編』166:71-78.

町村敬志・佐藤圭一編, 2016, 『脱原発をめざす市民活動』新曜社.